

## ますらを古典文法④

### 正格活用の動詞 その一

#### (1) 四段活用

- a・i・u・eの四段にわたって活用する。
- 例を参照して左表の空欄を埋めてみよう。

基本形	語幹	未然	連用	終止	連体	已然	命令	活用の種類
書く	書	か	き	く	く	け	け	力行四段活用
思ふ								
足る								
飽く								
下に続く語		くず	くたり	言い切り	くこと	くど	命令	

※「飽く」「足る」は口語では上一段活用。混同しないように。

#### (2) 上二段活用

- i・uの上二段にわたって活用する。
- 例を参照して左表の空欄を埋めてみよう。

基本形	語幹	未然	連用	終止	連体	已然	命令	活用の種類
起く	起	き	き	く	くる	くれ	きよ	力行上二段活用
恥づ								
恨む								
老ゆ								
下に続く語		くず	くたり	言い切り	くこと	くど	命令	

※「恨む」は文語では上二段活用。口語では五段活用。混同しないように。

※ヤ行上二段活用は「老ゆ」「悔ゆ」「報ゆ」の三語のみ。丸暗記！

〔発展〕上二段活用と下二段活用の終止形・連体形・已然形は全く同じ形になる。

### (3) 下二段活用

- u・eの下二段にわたって活用する。
- 例を参照して左表の空欄を埋めてみよう。

基本形	語幹	未然	連用	終止	連体	已然	命令	活用の種類
受く	受	e	e	u	uる	uれ	eよ	力行下二段活用
混ず								
出づ								
見ゆ								
得								
植う								
寝								
下に続く語		ず	たり	言い切り	こと	ど	命令	

- ※「見ゆ」「はマ行下二段」「見る」はマ行上一段。
- ※「得」「経」「寝」は語幹と語尾の区別のない下二段。  
その場合、語幹には「(得)」「(寝)」のように書く。
- ※ア行下二段は「得」のみ。ただし、複合語を作るので注意。
- ※ワ行下二段は「植う」「飢う」「据う」の三語のみ。丸暗記！

### ○四段・上二段・下二段動詞の見分け方(重要！)

※これら三種の動詞で全動詞の九七%くらいを占める。したがって、この三種類を見分けることが重要である。

動詞の活用を見分けるには……

- ① まず、右の※印に示した「一発丸暗記動詞」ではないことを確認する。
- ② 動詞に「ず」「づ」をつけて活用させる(つまり、未然形にする)。
- ③ a段になれば ↓ 四段活用  
i段になれば ↓ 上二段活用  
e段になれば ↓ 下二段活用

※口語の「くない」をつけて活用させるのも参考にはなる。ただし、文語では口語と違う活用になる場合があるので、十分注意すること。

(練習) 次の動詞の、活用の種類を書け。  
「朽つ」「( )」「与ふ」「( )」「待し」「( )」